

新型コロナウイルス抗体検査 説明同意文書

この用紙は当院で行う新型コロナウイルス検査の説明同意文書です。以下の注意点を十分理解したうえで検査を受けてください。

- ・検査前の 2 週間以内に発熱(37.5℃以上)、咳、喀痰などの風邪症状がある人は受けることができません。
- ・当院で行う抗体検査はその場では結果が分かりません。より正確な情報を得るため検査センターに提出しています。2-3 日は結果が出るまでかかります。
- ・診断目的には使えませんが、2 月や 3 月の風邪症状がコロナウイルスだったかもしれないことが分かります。
- ・結果は結果用紙を返却します。
- ・当院での検査結果をもとに PCR 検査を受けることはできません。
- ・就業制限・登校制限などをかけることはありません。抗体検査をもとに診断書を提出することは行っておりません。
- ・抗体検査は研究段階でもあることをご理解ください。
- ・保険適応ではないため、自費診療となります。8000 円/人を実費で頂きます。
- ・抗体検査結果は匿名化したうえで疫学調査などに利用させていただくことがあります。

以上のことに同意したうえで抗体検査を受けることを(同意・拒否)します。

本人の署名

保護者氏名(未成年者の場合)

抗体とは？

抗体は体の中に細菌やウイルスなどの敵が入った時に体内で製造される武器の1つです。

抗体にはIgA、IgE、IgM、IgEなどの種類があります。

この中でコロナウイルスに関係あるのはIgMとIgGです。

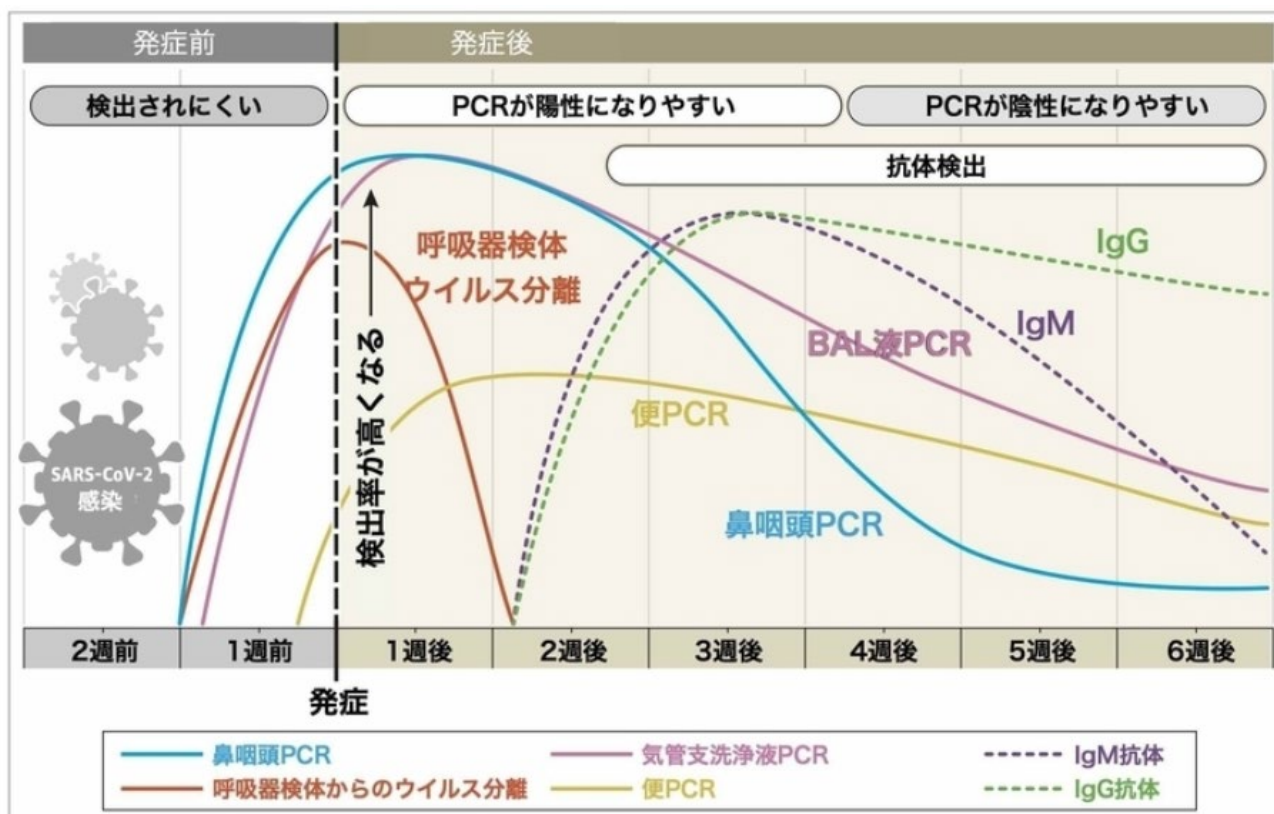
体内にコロナウイルスが入ると1週間程度でIgMが製造され、3週間もすればIgGも製造されると言われています。IgMは体内からいずれ消えてしましますが、IgGは長いこと体内にとどまると考えられています。永久にとどまるかはまだ分かっていません。

風疹や麻疹などのワクチンを打って免疫をつけるというのはIgGを体内で作ることを目的としています。

一般的にIgG抗体を持っていれば、かかりにくく(かからない保証ではありません!)なるとされてます。スウェーデンでは敢えてコロナウイルスにかかることでIgG抗体を国民が身に付けようという政策をとっています。

ただ、コロナウイルスの抗体に関してまだ分からないことが多く、IgGがあればコロナウイルスにかからないのかは分かりません。インフルエンザのように違うタイプのコロナウイルスが流行した場合には力が発揮できない可能性があります。

抗体検査キットも様々な会社が発売しています。関東を中心としたクリニックではその場でわかる抗体検査を行っている施設が多いですが、当院では検体を検査センターに送って抗体力価(抗体量)も含めて検査をするため2~3日間は期間を要します。



発症からの日数とPCR検査、抗体検査、ウイルス分離の陽性率 (doi:10.1001/jama.2020.8259より)

IgG 抗体が陽性だった場合：どこかのタイミングでコロナウイルスに感染していた可能性があります。周囲で感染者が増えていなければ、あなたの感染対策はある程度有効であったと考えられます。

IgG 抗体が陰性だった場合：手洗いやマスクなどで侵入を予防できていたと解釈できます。

今後も気を抜かずに感染対策を行いましょう。